



# D A R C

igital archive e search enter

# フォーラム

# in 日吉



慶應義塾大学 日吉キャンパス

## 来往舎シンポジウムスペース

2007年10月11日(木) 16:30~19:00

1. 「進化するデジタルアーカイブーHUMI から DARC へ、そして」  
高宮利行 (文学部教授、HUMI プロジェクト主事、DARC 研究代表者)
2. 「西洋挿絵入り本のデジタル・エディション」  
松田隆美 (文学部教授、DARC 研究分担者)
3. 「貴重書デジタル化の実際」  
櫻村雅章 (HUMI プロジェクト研究員、DARC 研究分担者)
4. 「慶應インキュナブラ・プロジェクトー発足からデジタルギャラリー公開まで」  
徳永聡子 (文学部助教、DARC 研究協力者)
5. 「奈良絵本のデジタル化」  
石川透 (文学部教授、DARC 研究分担者)
6. 「アート・アーカイブとアーキヴィストとキュレーター」  
前田富士男 (文学部教授、アート・センター所長、DARC 研究分担者)

フリーディスカッション  
司会進行: 高宮利行

※ どなたでも自由にご参加下さい。

# Digital Archive Research Center フォーラム in 日吉

慶應義塾の各キャンパスには、さまざまな有形の文化的・研究的な資産が蓄えられています。これをデジタル化して保存し誰でも活用できるようにという目的で、デジタルアーカイブというコンセプトが生まれました。人文科学の分野では、慶應義塾のデジタルコンテンツ創りには長い歴史があります。

1996年、西欧にメディア革命をもたらしたグーテンベルク聖書が慶應義塾に将来した際、我々はこの宝物の番人であってはいけない、これをデジタル化して万人が見られるようにしましょう、そしてデジタル化にかかわるさまざまな要素を実験し研究しようと、学部横断型のHUMIプロジェクトが生まれました。それから11年、慶應義塾におけるこの種の研究は、HUMIからDRM、そして、DARCへと姿を変えながら、発展を続けてきました。

しかし従来、三田・SFC・矢上のキャンパスに在籍するメンバーによって構成されていたこの活動は、日吉の教員や職員、学生のみなさんには、あまりなじみがなかったかもしれません。そこで今回、デジタルアーカイブとは何か、に関心ある皆さんに、DARC(Digital Archive Research Center:デジタルアーカイブ・リサーチセンター)の歴史と変遷にふれながら、現在の活動を紹介したいと考えました。

西欧の古書、奈良絵本、そしてアート・センターや慶應義塾図書館のデジタルアーカイブと、内容は盛りだくさんです。日吉の教職員や学生の方に、慶應義塾におけるデジタルアーカイブの活動の一端を知っていただき、関心ある方々にその活動への参加をお誘いしたいと存じます。  
高宮利行(DARC研究代表者)

2007年10月11日(木) 16:30~19:00

## 慶應義塾大学 日吉キャンパス 来往舎シンポジウムスペース

▶どなたでも自由にご参加下さい◀

1. 「進化するデジタルアーカイブ—HUMI から DARC へ、そして」  
高宮利行(文学部教授、HUMI プロジェクト主事、DARC 研究代表者)
  2. 「西洋挿絵入り本のデジタル・エディション」  
松田隆美(文学部教授、DARC 研究分担者)
  3. 「貴重書デジタル化の実際」  
樫村雅章(HUMI プロジェクト研究員、DARC 研究分担者)
  4. 「慶應インキュナブラ・プロジェクト—発足からデジタルギャラリー公開まで」  
徳永聡子(文学部助教、DARC 研究協力者)
  5. 「奈良絵本のデジタル化」  
石川透(文学部教授、DARC 研究分担者)
  6. 「アート・アーカイブとアーキヴィストとキュレータ」  
前田富士男(文学部教授、アート・センター所長、DARC 研究分担者)
- フリーディスカッション  
司会進行:高宮利行

主催:慶應義塾大学デジタルアーカイブ・リサーチセンター <http://www.darc.keio.ac.jp>

共催:慶應義塾大学 HUMI プロジェクト <http://www.humi.keio.ac.jp>

慶應義塾大学アート・センター <http://www.art-c.keio.ac.jp>

お問い合わせ 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

電話:03-5427-1646

FAX:03-5427-1647

[forum@darc.keio.ac.jp](mailto:forum@darc.keio.ac.jp)